

# 平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

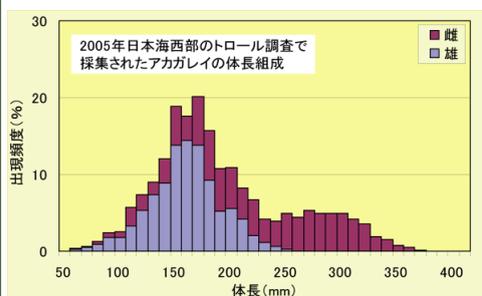
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 不明  
 成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、50%成熟体長は雌27cm、雄17cm  
 産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在  
 索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~700m)で索餌  
 食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食  
 捕食者: 不明

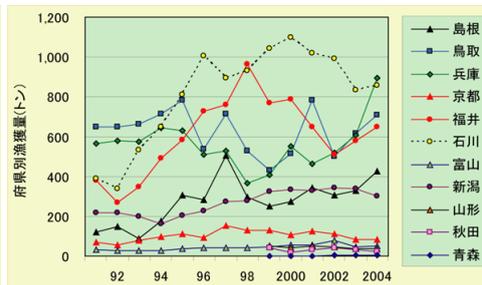


## 漁業の特徴

アカガレイは日本海および東北地方太平洋沿岸~北海道に生息し、底びき網漁業や刺網漁業などの漁獲対象となっている。日本海においては水深150~700mに分布し、沖合底びき網漁業および小型底びき網漁業の主な対象種となっている。

## 漁獲の動向

1991年以降の日本海西部(石川県~島根県)の漁獲量を見ると、1990年代前半は2,000トン程度であったが、1995年頃に3,000トンを超え、その後は3,000~3,500トンで安定して推移している。日本海北部(青森県~富山県)では、近年は400~500トン台で安定している。日本海全体でも近年は3,500トン前後で安定している。2004年は西部の漁獲量が増加したため4,000トンを超えた。



## 資源評価法

各海域(県)の漁獲動向と沖合底びき網の漁獲統計を参照して、資源水準と動向を判断した。

## 資源状態

日本海西部の漁獲量を見ると、1990年代前半の極めて低い水準から脱して安定して推移していた。沖合底びき網の努力量の変化を見ても、現状の漁獲圧は低い状態にある。近年、日本海西部(若狭西部~隠岐周辺東部)に卓越年級群が着底し、2004年漁期から漁獲され始め、漁獲量も過去15年で最も高い値となったが、1980年代のレベルには達していないと判断し、資源水準は中位とした。また、2004年の漁獲量が増加したこと、2005年以降は卓越年級が本格的に漁獲対象となることを勘案し、動向は増加傾向とした。



## 管理方策

日本海西部では卓越年級群が漁獲され始めたが、雌は漁獲開始から成熟に数年を要することから、漁獲圧を現状以上に上げず、特に雌の小型魚を保護することが、資源を増やすうえで重要である。また、それ以外の年級群の加入や現在の産卵親魚量も悪い状態ではないと判断されることから、2004年漁獲量をABClimitとし、さらにその9割をABCtargetとした。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	4,000トン	C2004	-	-
ABCtarget	3,600トン	0.9C2004	-	-

## 資源評価のまとめ

- 最近年の資源状態は、日本海全体では中位である

- 卓越年級群が本格的に漁獲され始める
- 卓越年級群以外の年級、とくに産卵親魚量や小型個体の加入状況も悪くない

#### 管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧を現状以上にしないこと
- 加賀・若狭海域の禁漁区が成果をあげていると考えられることから、本種の生物特性にあった資源管理・保護を行うことは重要
- 卓越年級群が加入したが、漁獲開始～成熟に雌は数年を要することから、雌小型魚を保護することが資源を増やすうえで重要

資源評価は毎年更新されます。  
2005.11.4更新